

株式会社FOOD & LIFE COMPANIES

2022年度第3四半期

決算説明資料

2022年8月4日



FOOD & LIFE
COMPANIES

[連結] 業績ハイライト FY22/Q3累計

- 売上収益については、主要事業である国内スシロー事業が、6月度に既存店昨対売上が100%を割るなど厳しい状況となる。一方、海外スシロー事業においては、Q3で売上100億円超、売上構成比でも14.2%となった。
- 利益面では、FY21にあった有利買付効果40億円がなくなったこと、また、減損損失（その他費用）や持分法による投資損失（金融費用）により大きく減益となった。

	FY21/Q3 累計		FY22/Q3 累計		前年比
	実績	売上比	実績	売上比	
(単位: 百万円)					
売上収益	178,751	—	211,937	—	18.6%
営業利益	18,245	10.2%	12,372	5.8%	▲ 32.2%
税前利益	17,293	9.7%	10,173	4.8%	▲ 41.2%
当期利益	10,702	6.0%	5,252	2.5%	▲ 50.9%
調整後 営業利益*	14,871	8.3%	11,893	5.6%	▲ 20.0%
売上原価	81,401	45.5%	98,372	46.4%	0.9pt
店舗数	971	—	1065	—	94

* 調整後営業利益 = 売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費

[連結] 業績ハイライト (セグメント別) FY21/Q3累計 対比

- 国内スシロー事業：コロナによる消費者の行動変容により客数回復に遅れがある事に加え、景品表示法に係る措置命令を受け、お客様の信頼を失う事案を発生させてしまった事により客数が減少し、売上が想定を大幅に下回る結果となった。
- 海外スシロー事業：コロナ規制解除後、業績は順調に回復。コロナによる出店の遅れがあるも、全体としては順調に推移。
- 京樽事業：業績は厳しい状況が続くも、「京樽・スシロー」、「回転寿司みさき」へのリブランドを通じた改革を進める。

	国内スシロー事業			海外スシロー事業			京樽事業			その他事業		
	FY21 Q3	FY22 Q3	増減率 (増減数)	FY21 Q3	FY22 Q3	増減率 (増減数)	FY21 Q3	FY22 Q3	増減率 (増減数)	FY21 Q3	FY22 Q3	増減率 (増減数)
(単位: 百万円)												
売上収益	160,937	167,754	4.2%	12,129	25,398	109.4%	4,542	15,844	248.8%	1,143	2,941	157.2%
営業利益 (ロイヤリティ支払い前)	19,177	14,797	▲22.8%	▲507	1,531	—	321	▲1,154	—	▲916	▲344	—
減価償却費 及び償却費	10,719	11,870	10.7%	1,819	3,097	70.2%	423	1,240	192.8%	231	304	31.8%
減損損失	269	1,705	533.6%	405	542	33.7%	—	878	—	565	164	▲70.9%
EBITDA	29,897	26,671	▲10.9%	1,312	4,628	252.7%	744	86	▲88.5%	▲685	▲40	—
店舗数	596	645	(49)	51	77	(26)	286	280	(▲6)	38	63	(25)

* EBITDA：営業利益に減価償却費及び償却費を調整

** 連結合計営業利益とセグメント別営業利益の合計の差額は、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用

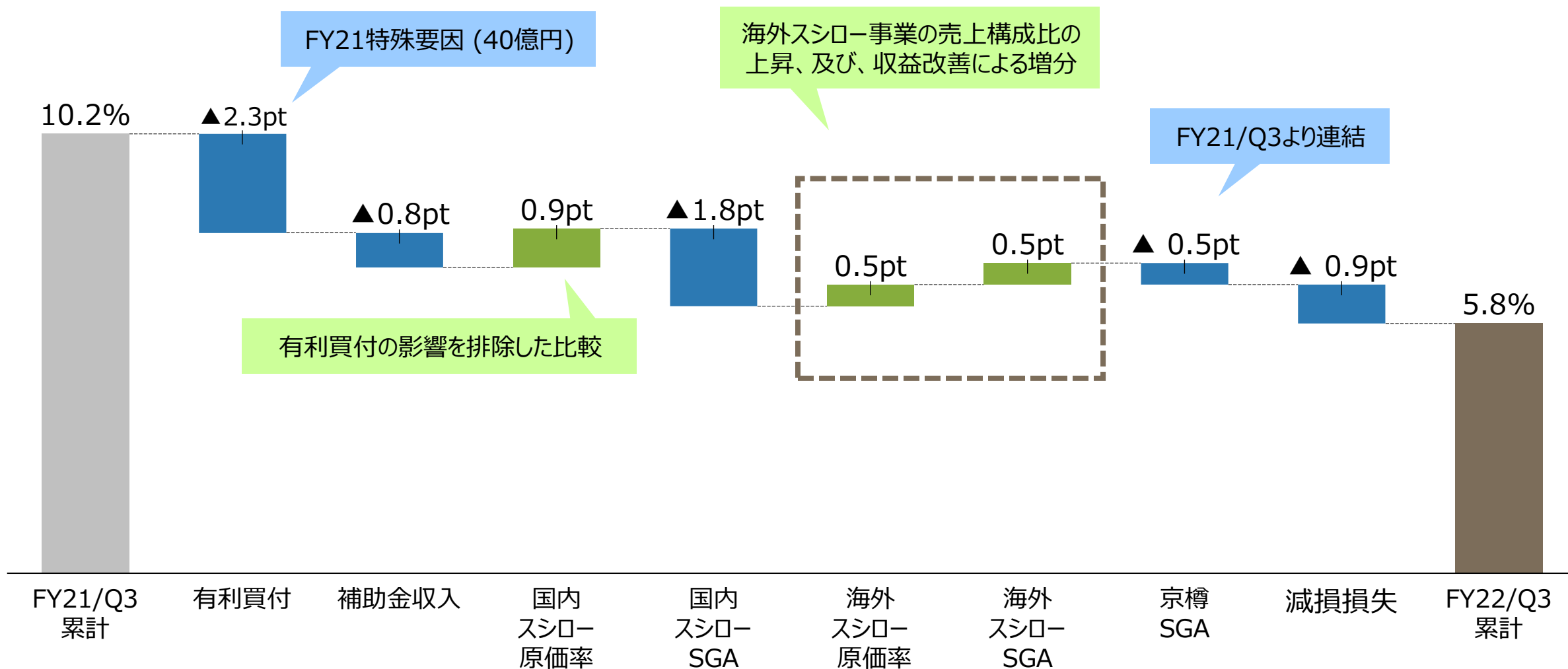
***京樽事業は FY21/Q3より連結業績に反映

[連結] 業績ハイライト (セグメント別、会計期間別) FY22/Q1, Q2, Q3

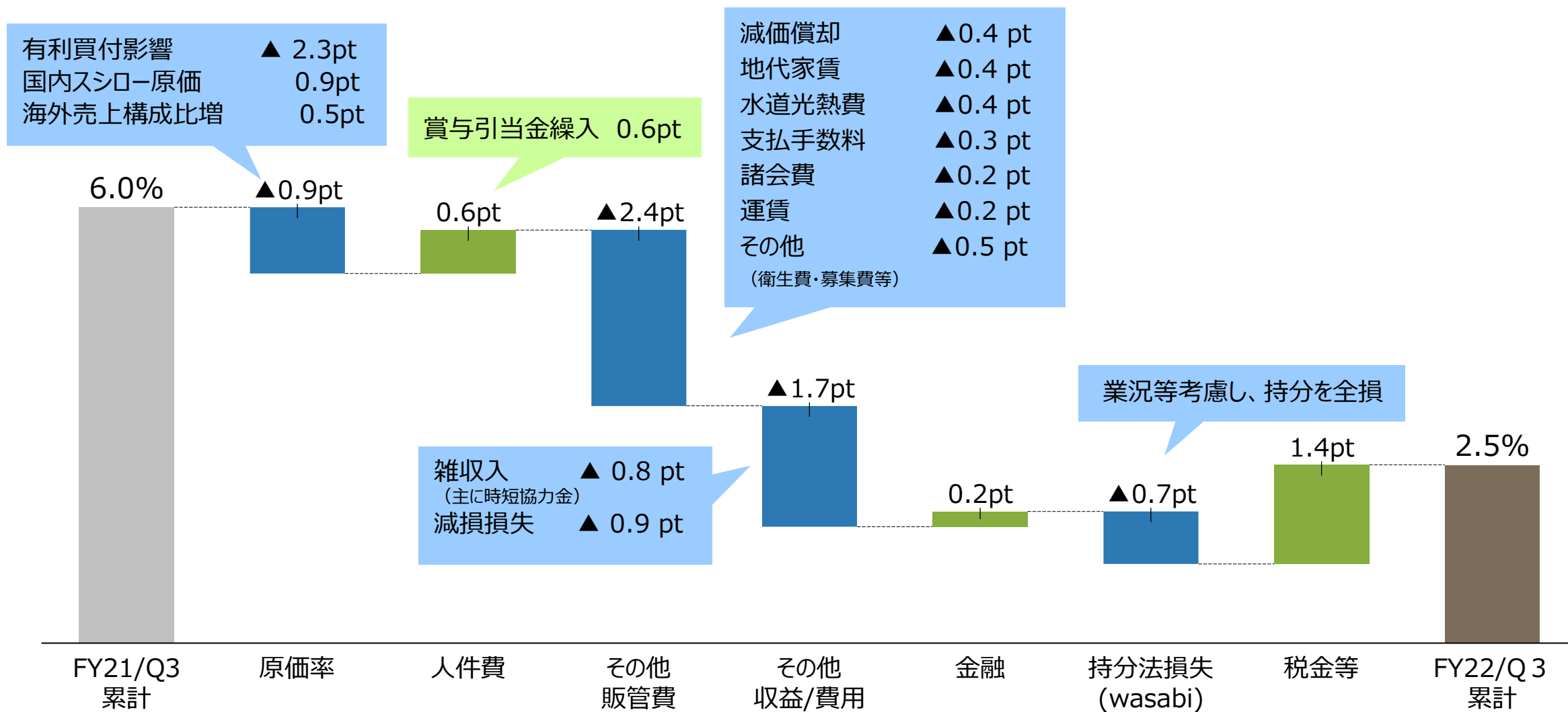
		国内スロー事業		海外スロー事業		京樽事業		その他事業	
(単位: 百万円)		実績	比率 ⁽¹⁾	実績	比率 ⁽¹⁾	実績	比率 ⁽¹⁾	実績	比率 ⁽¹⁾
Q1 FY22	売上収益	57,424	80.2%	7,493	10.5%	5,708	8.0%	977	1.3%
	営業利益 ⁽³⁾	4,762	8.3%	605	8.1%	▲467	▲8.2%	▲233	▲23.8%
	減価償却費	3,842	—	840	—	384	—	86	—
	減損損失	292	—	72	—	303	—	130	—
	EBITDA	8,604	15.1%	1,445	19.3%	▲83	▲1.5%	▲147	▲15.0%
Q2 FY22	売上収益	54,849	79.9%	7,756	11.3%	5,060	7.4%	990	1.4%
	営業利益 ⁽³⁾	6,011	11.0%	50	0.6%	▲299	▲5.9%	▲114	▲11.5%
	減価償却費	4,011	—	1,069	—	437	—	99	—
	減損損失	191	—	368	—	401	—	34	—
	EBITDA	10,022	18.3%	1,119	14.4%	138	2.7%	▲15	▲1.5%
Q3 FY22	売上収益	55,481	77.4%	10,149	14.2%	5,076	7.1%	974	1.3%
	営業利益 ⁽³⁾	4,025	7.3%	876	8.6%	▲388	▲7.6%	2	0.2%
	減価償却費	4,017	—	1,188	—	419	—	119	—
	減損損失	1,221	—	103	—	174	—	0	—
	EBITDA	8,042	14.5%	2,064	20.3%	30	0.6%	121	12.0%

(1) 表中の「比率」について：「売上収益」の「比率」は、連結の売上収益における構成比率。「営業利益」と「EBITDA」の「比率」は、セグメント内の、「売上収益」に対する構成比率。
 (2) FY22/Q2より、国内グループ間 取引引きの見直しを実施
 (3) 営業利益は、ロイヤリティ支払い前の値
 (4) EBITDA：営業利益に減価償却費及び償却費を調整
 (5) 連結合計営業利益とセグメント別営業利益の合計の差額は、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用
 (6) 京樽事業は FY21/Q3より連結業績に反映

[連結] 営業利益 変化要因分析 FY21/Q3 累計 対比



[連結] 当期利益 変化要因分析 FY21/Q3 累計 対比



[連結] 財務状況

連結財政状態計算書

(単位：百万円)	FY21/9	FY22/Q3	増減
流動資産	48,841	70,126	21,284
[現預金]	[29,367]	[55,435]	[26,068]
非流動資産	247,159	261,367	14,208
[のれん]	[30,541]	[30,541]	[-]
資産	296,001	331,493	35,492
流動負債	59,860	53,750	▲6,110
[借入金]	[4,009]	[4,009]	[-]
非流動負債	172,568	211,353	38,785
[社債及び借入金]	[58,896]	[89,913]	[31,017]
負債	232,428	265,103	32,675
資本	63,573	66,390	2,817
負債資本	296,001	331,493	35,492
自己資本比率	21.3%	19.8%	▲1.5
Net Debt/EBITDA	1.4x	1.9x	0.5

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	FY21/Q3	FY22/Q3	増減
営業CF	22,398	23,783	1,384
投資CF	▲13,423	▲14,227	▲804
財務CF	6,595	15,623	9,027
キャッシュ増減	15,741	26,068	10,326

■連結BS

資産：(主な増加) 現預金、有形固定資産 (主な減少) 営業債権

負債：(主な増加) リース負債、社債及び借入金
(主な減少) 未払法人税

資本：(主な増加) 四半期利益 (主な減少) 自己株式取得及び配当支払

■連結CF

営業CF：営業債権等減少額FY21/Q3対比97億円増加 (主に時短協力金回収)

投資CF：出店/省人化投資継続により投資支出増加 (海外投資比率26.6%)

財務CF：FY22/Q3は長期借入による収入340億円あり

■経営指標

自己資本比率 及び NetDebt/EBITDA共に低下 (直近12カ月EBITDA実績値を使用)

ROEについてはFY21/Q3：19.4%→FY22/Q3：8.2%と低下 (減益の影響)

[全社] 国内・海外の店舗数推移

	FY21	FY22/Q3			Q3末 店数
	通期末 店数	OPEN	CLOSE	増減	
郊外型 ⁽¹⁾	564	20	3 ⁽²⁾	17	581
都市型	31	7 ⁽²⁾	0	7	38
テイクアウト専門	15	13	2	11	26
[国内] スシローブランド	610	40	5	35	645
[国内] 杉玉ブランド ⁽³⁾	39	22	1	21	60
[国内] 京樽ブランド (テイクアウト専門)	154	8	5	3⁽⁴⁾	157
[国内] 回転寿司みさき (海鮮三崎港) ・ 三崎丸 ブランド	106	0	4	▲4⁽⁴⁾	102
通常型	58	17	0	17	75
テイクアウト専門	1	1	0	1	2
[海外] スシローブランド	59	18	0	18	77
その他のブランド	31	0	7	▲7	24
全社 計	999	88	22	66	1,065

[Note] (1) 4店舗の110円トライアル店含む (2) 郊外→都市型へ転換分含む (郊外 -1, 都市+1)
(3) 杉玉ブランドには、FC店舗数を含む (4) 三崎丸→京樽へ転換分含む (三崎丸 -1, 京樽 +1)

[海外] コロナ影響で出店に遅れも、業績は力強く回復し、黒字化を達成

韓国

コロナ影響：小

業績 営業規制解除後、売上・客数は順調に回復。売上は過去最高水準に。

課題 コロナからの人員不足が依然継続。採用活動を一層強化し、OP安定化を図る。

店数⁽¹⁾ 9 / 10 店舗 (+0)

香港

コロナ影響：小

業績 規制緩和につれフルタイム営業が可能に。コスト管理も奏功し黒字化達成。

課題 売上・利益ともに堅調に達成してきているため、新店出店による更なる業績向上を図る。

店数 16 / 18 店舗 (+5)

タイ

コロナ影響：小

業績 売上は堅調に推移し、黒字化達成。

課題 現地マネージャーの育成を一層強化し、売上・コスト管理での店舗のばらつきをなくす。

店数 8 / 9 店舗 (+5)

台湾

コロナ影響：中

業績 感染者数は5月末をピークに減少傾向にあり、業績は回復基調。

課題 販促やPRの頻度や内容を強化し、業績の更なる向上を図る。

店数 28 / 32 店舗 (+2)

シンガポール

コロナ影響：中

業績 既存店売上がもどってきており、全体的な業績も回復基調。

課題 採用難による人員不足解消を積極的に図り、売上獲得の機会損失をなくす。

店数 10 / 15 店舗 (+1)

中国大陸 (広州/深圳/成都)

コロナ影響：中

業績 広州市内陽性者頻出による影響はあるも、予算を超える売上を順調に維持。

課題 深圳・成都オープンに向けた準備。特に人員採用と教育に注力する。

店数 6 / 8 店舗 (+5)

2022年9月期 業績修正について ①

	FY22 業績予想 ① (11月5日)	FY22 業績予想 ② (5月6日)	FY22 業績予想 ③ (8月4日)	変動率 ③/①	FY21 実績 ④	成長率 ③/④
売上収益	310,000	295,000	280,000	▲9.7%	240,804	16.3%
営業利益	21,000	16,000	8,500	▲59.5%	22,901	▲62.9%
営業利益 %	6.8%	5.4%	3.0%	▲3.8pt	9.5%	▲6.5pt
税前利益	19,000	14,000	6,000	▲68.4%	21,584	▲72.2%
税前利益 %	6.1%	4.7%	2.1%	▲4.0pt	9.0%	▲6.9pt
当期利益	12,000	8,700	3,000	▲75.0%	13,119	▲77.1%
当期利益 %	3.9%	2.9%	1.1%	▲2.8pt	5.4%	▲4.3Pt
1株当たり当期利益	103.39	75.18	25.92	▲77.47	113.61	▲87.69
既存店昨対売上	108.8%	104.0%	96.4%	▲12.4pt	104.3%	▲7.9pt
出店数	115~153	115~153	111~116	—	388 *京樽除くと101	—
原価率	45.6%	46.4%	46.2%	0.6pt	45.9%	0.3pt
従業員給付費用率	27.2%	27.4%	27.8%	0.6pt	28.2%	▲0.4pt
その他販管費	20.1%	20.4%	21.9%	1.8pt	19.9%	2.0pt
その他収益・費用率	▲0.3%	0.4%	▲1.1%	▲0.8pt	3.5%	▲4.6pt

*その他収益・費用率：その他収益-その他費用を売上収益で除したものの

■業績予想に係る主な要因

(国内スシロー事業)

- ✓ 5月修正時点よりも国内事業の回復状況が鈍く、かつ景表法違反等の影響もあり、6月以降想定以上の客数減少が発生。本影響はQ4中は継続する想定、加えてキャンペーンに関するTVCM等を自粛する予定であり、Q4では更に厳しい状況を想定

※国内スシロー事業既存店売上昨対
(通期) 期初 108.8% → Q2修正時104% → Q3修正時96.4%
(下期) 期初 116% → Q2修正時113% → Q3修正時97%
(Q3修正時 97%の前提は、8月 90%、9月 94%)

(減損損失及び持分法による投資損失の計上)

- ✓ 上記の売上の現況を鑑みQ3累計では減損損失32.8億円計上。また、Q4のみで30億円程度の発生を見込む。英国 Wasabiに係る投資についても減損処理を行い、持分法による投資損失としてQ3累計で20億円計上。

■成長率について

- ✓ 国内スシロー事業既存店売上は、FY21対比、96.4%を見込む。
 - ✓ FY21は、有利買付40億円や補助金収入107億円が発生。FY22は、補助金収入36億円となり、減益。
 - ✓ 減損損失、FY21：23億円からFY22：60億円超を見込む。また、英国 Wasabi 関連の損失も、FY21 5億円からFY22 20億円と増加している。
- 以上の結果、営業利益以下において、FY21比でマイナス成長率を見込む。

■総括

FY22においては、コロナ規制解除後の回復が想定を大きく下回り、かつ景表法違反事案でお客様の信頼を失い、国内事業では厳しい状況が続く一方で、海外スシロー事業においては、大幅な増収増益の達成を見込む。

2022年9月期 業績修正について ②

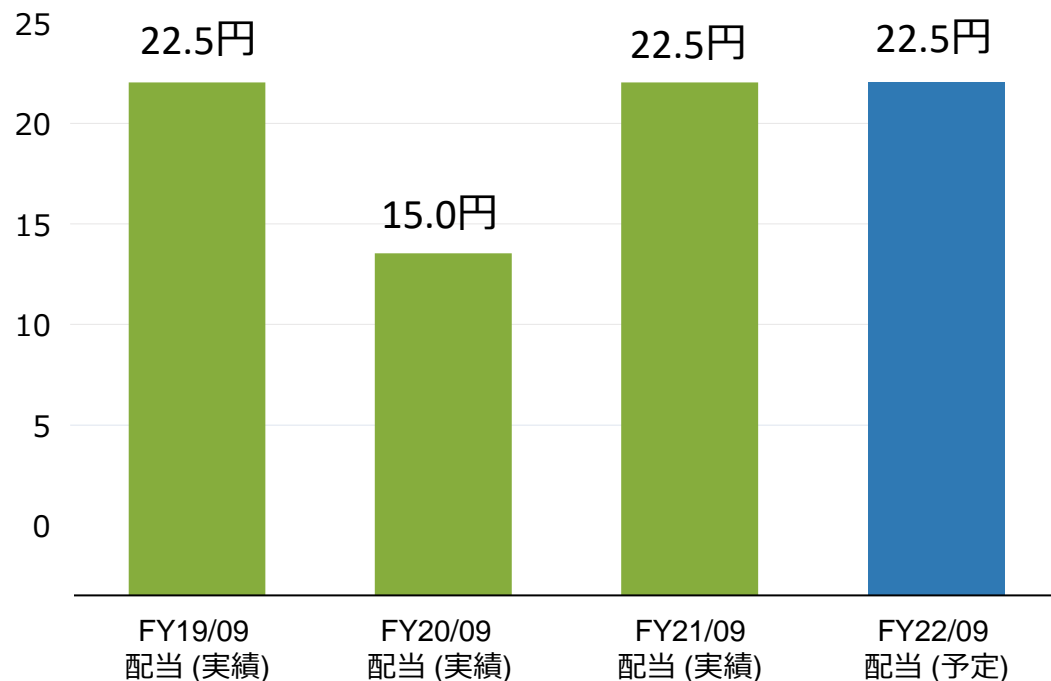
	FY22									
	Q1		Q2		Q3		Q4 (予想)		通期 (予想)	
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	予想	売上比	予想	売上比
(単位: 百万円)										
売上収益	71,601	—	68,655	—	71,680	—	68,063	—	280,000	—
営業利益	5,469	7.6%	4,103	6.0%	2,801	3.9%	▲3,872	▲5.7%	8,500	3.0%
税前利益	5,255	7.3%	3,792	5.5%	1,127	1.6%	▲4,173	▲6.1%	6,000	2.1%
当期利益	3,389	4.7%	2,200	3.2%	▲337	▲0.5%	▲2,252	▲3.3%	3,000	1.1%
調整後 営業利益*	5,044	7.0%	2,773	4.0%	4,076	5.7%	▲413	▲0.6%	11,480	4.1%
売上原価	33,668	47.0%	31,847	46.4%	32,856	45.8%	30,988	45.5%	129,360	46.2%

* 調整後営業利益 = 売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費

株主還元について

配当

- 2020年4月1日に1株につき4株の割合で株式分割を実施（過去実績も分割後に合わせて記載）
- FY22/9は厳しい業績なるも、22.5円の配当を据え置く予定（配当総額26億円を予定）



株主優待

種類

国内のスシロー・杉玉全店舗・(株)京樽が運営する全ブランド（※一部店舗を除く）で利用できる優待割引券

保有株数/ 贈呈金額

※贈呈金額は
2021年3月末日
基準日以降分

以下の保有株式数に応じて、年2回、国内店舗で利用可能な優待割引券を贈呈。

- 100株 ~ 199株: 年間 2,200円分**
1,100円（9月末日基準日）、1,100円（3月末日基準日）
- 200株 ~ 399株: 年間 3,300円分**
1,650円（9月末日基準日）、1,650円（3月末日基準日）
- 400株 ~ 799株: 年間 4,400円分**
2,200円（9月末日基準日）、2,200円（3月末日基準日）
- 800株 ~ 1999株: 年間 8,800円分**
4,400円（9月末日基準日）、4,400円（3月末日基準日）
- 2,000株 ~ : 年間 22,000円分**
11,000円（9月末日基準日）、11,000円（3月末日基準日）

使用 条件

- 会計金額1,100円（税込）毎に550円の優待割引券のご利用が可能
- 他の割引券との併用可能
- ネット注文・デリバリーではご利用頂けません。



FOOD & LIFE
COMPANIES

本件に関する注意事項

本資料は、株式会社FOOD & LIFE COMPANIES（以下「当社」）の企業情報等の提供のために作成されたものであり、日本、米国その他の法域における当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

当社は、本資料に含まれる情報または意見の公平性、正確性、完全性または正当性について、明示的または黙示的に表明または保証をするものではありませんので、これらに依拠することのないようお願いいたします。本資料の使用または内容等に関して生じたいかなる損害について、当社は一切の責任を負いません。また、本資料の内容は事前の通知なく大幅に変更されることがあります。

本資料は、本資料の作成時点における業界、市場動向または経済情勢等に基づき作成されたものであり、その後が発生する事象に基づき影響を受ける可能性があります。当社は、それらの情報を最新のものに更新するという義務を有していません。

本資料には、当社の現在の見通し、予想、目標、計画などを含む将来に関する見通しが含まれています。このような将来に関する見通しは、経営陣による将来の業績の保証を表すものではありません。これらの見通しは、将来の予想を議論し、戦略を特定し、経営成績または当社の財務状態の予測を含み、または当社の事業および業界、将来の事業戦略ならびに将来において当社が営業を行う環境に関する当社の現在における予想、想定、見積もりおよび予測に基づくその他の将来に関する情報を記載するものです。既知および未知のリスク、不確実性およびその他の要因により、当社の実際の業績は、将来に関する見通しに記載されまたは示唆されるものとは大幅に異なる可能性があります。当社は、これらの将来に関する見通しに記載される予想が正確なものであることを保証することはできません。実際の業績は予想とは大幅に異なる可能性があります。